

第 2 章 調査結果の分析

第2章 調査結果の分析

2-1 水道の使用状況

(1) 水の飲み方

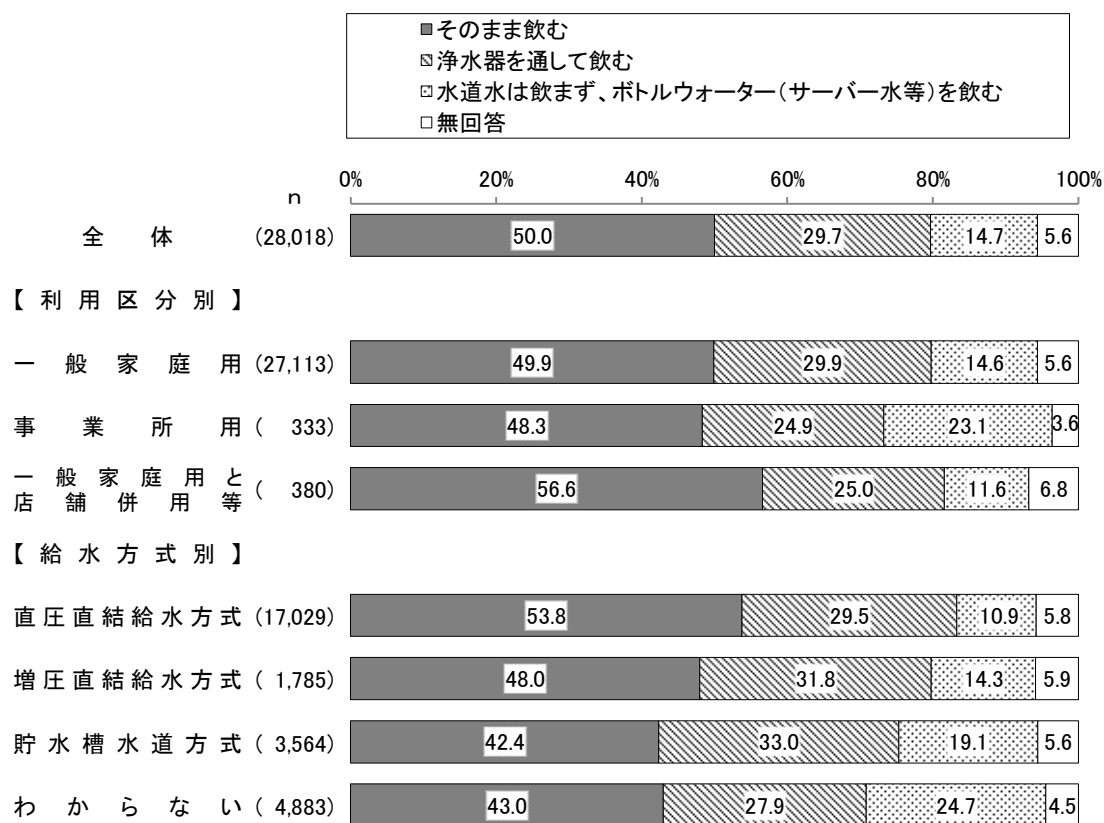
問 普段、水道水をどのように飲まれていますか。

- 1) そのまま飲む
- 2) 浄水器を通して飲む
- 3) 水道水は飲まず、ボトルウォーター（サーバー水等）を飲む

〔A：問6、E：問6〕

〔調査結果〕

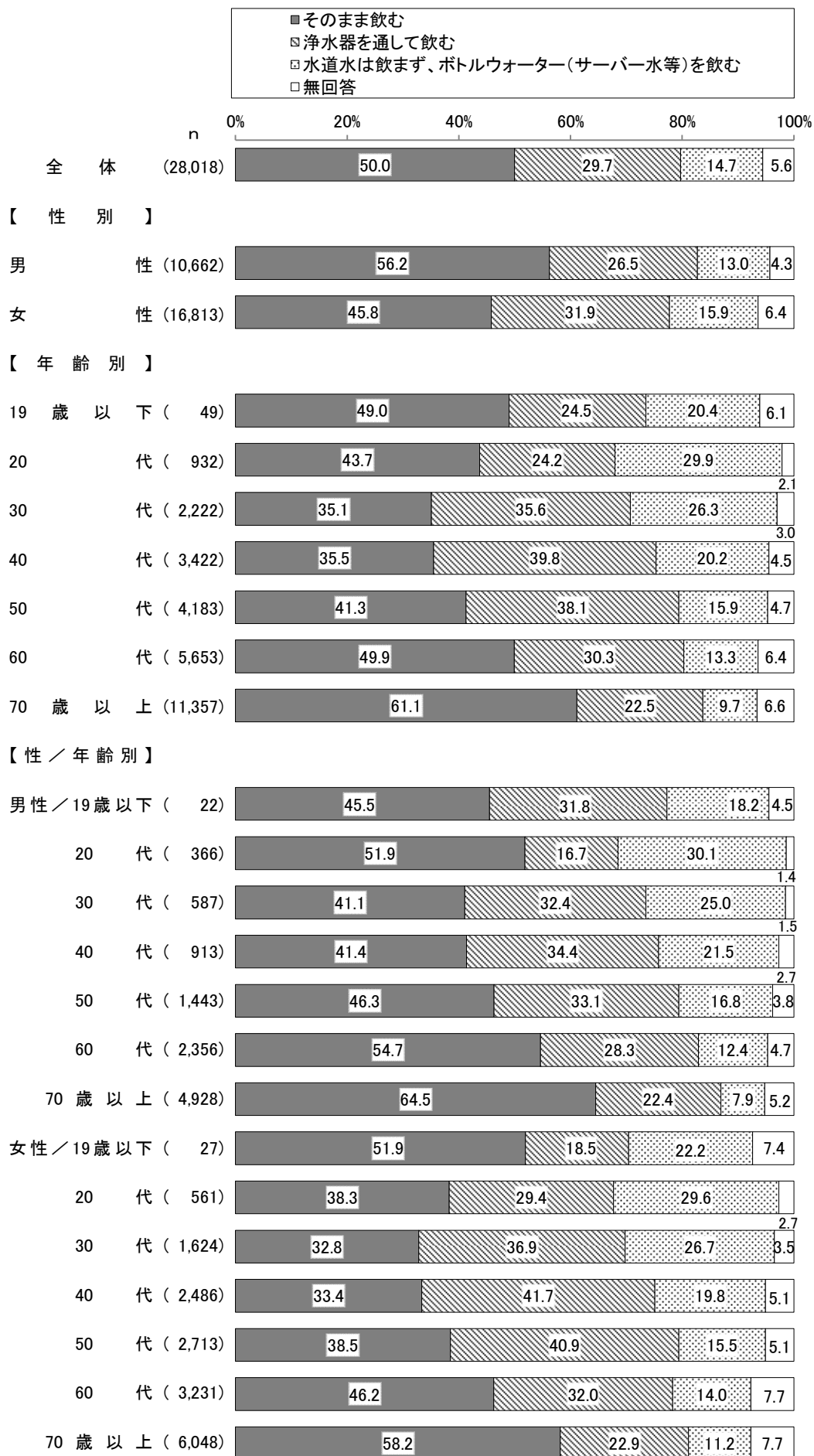
① 水の飲み方（利用区分別、給水方式別）〈図表2-1-1〉



<特徴>

- 全体でみると、「そのまま飲む」が50.0%で最も高くなっている。以下「浄水器を通して飲む」(29.7%)、「水道水は飲まず、ボトルウォーター（サーバー水等）を飲む」(14.7%)となっている。
- 利用区分別では、「そのまま飲む」は、一般家庭用と店舗併用等で56.6%と最も高くなっている。
- 給水方式別では、「そのまま飲む」は、直圧直結給水方式で53.8%と最も高くなっている。

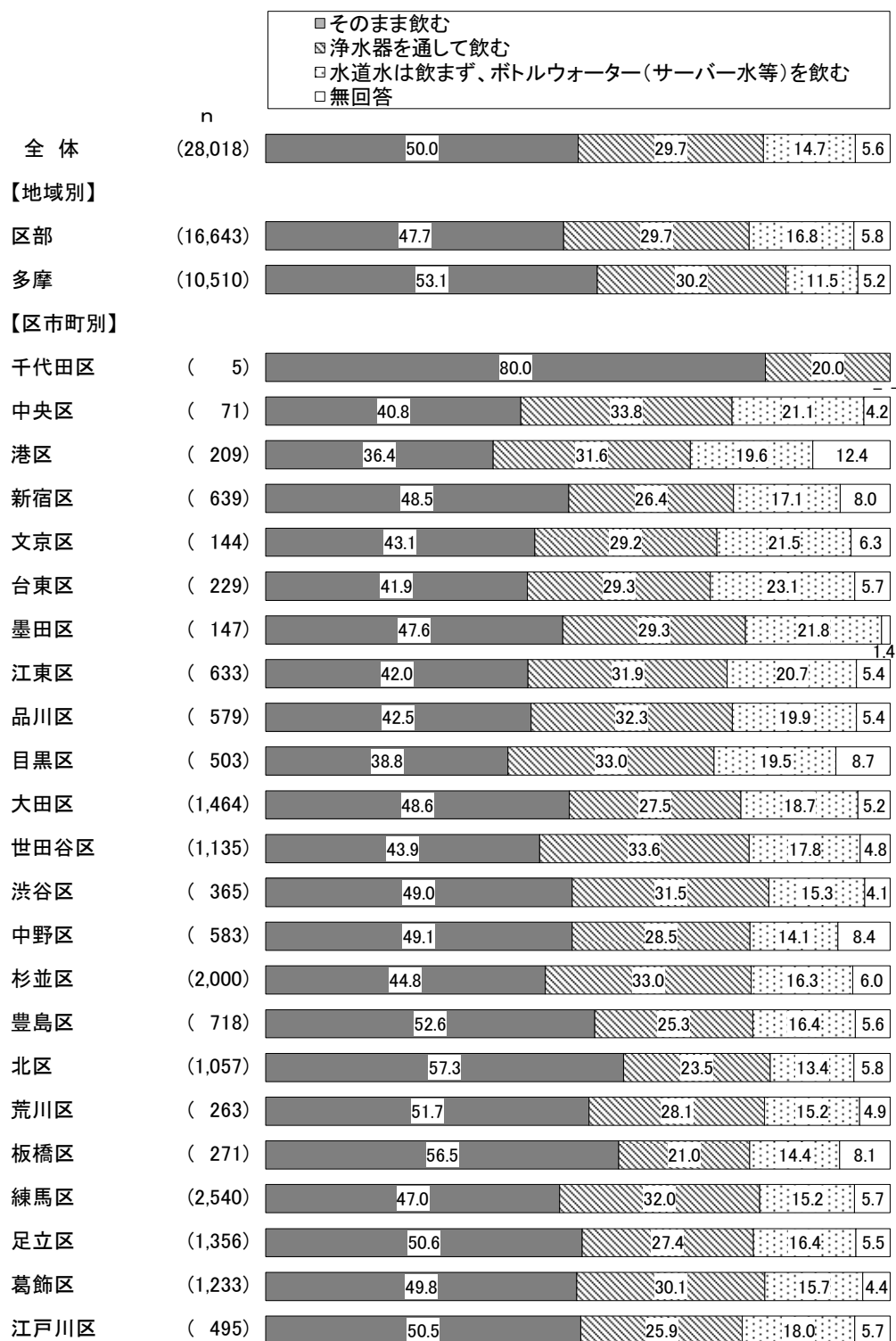
② 水の飲み方（属性別）〈図表２－１－２〉



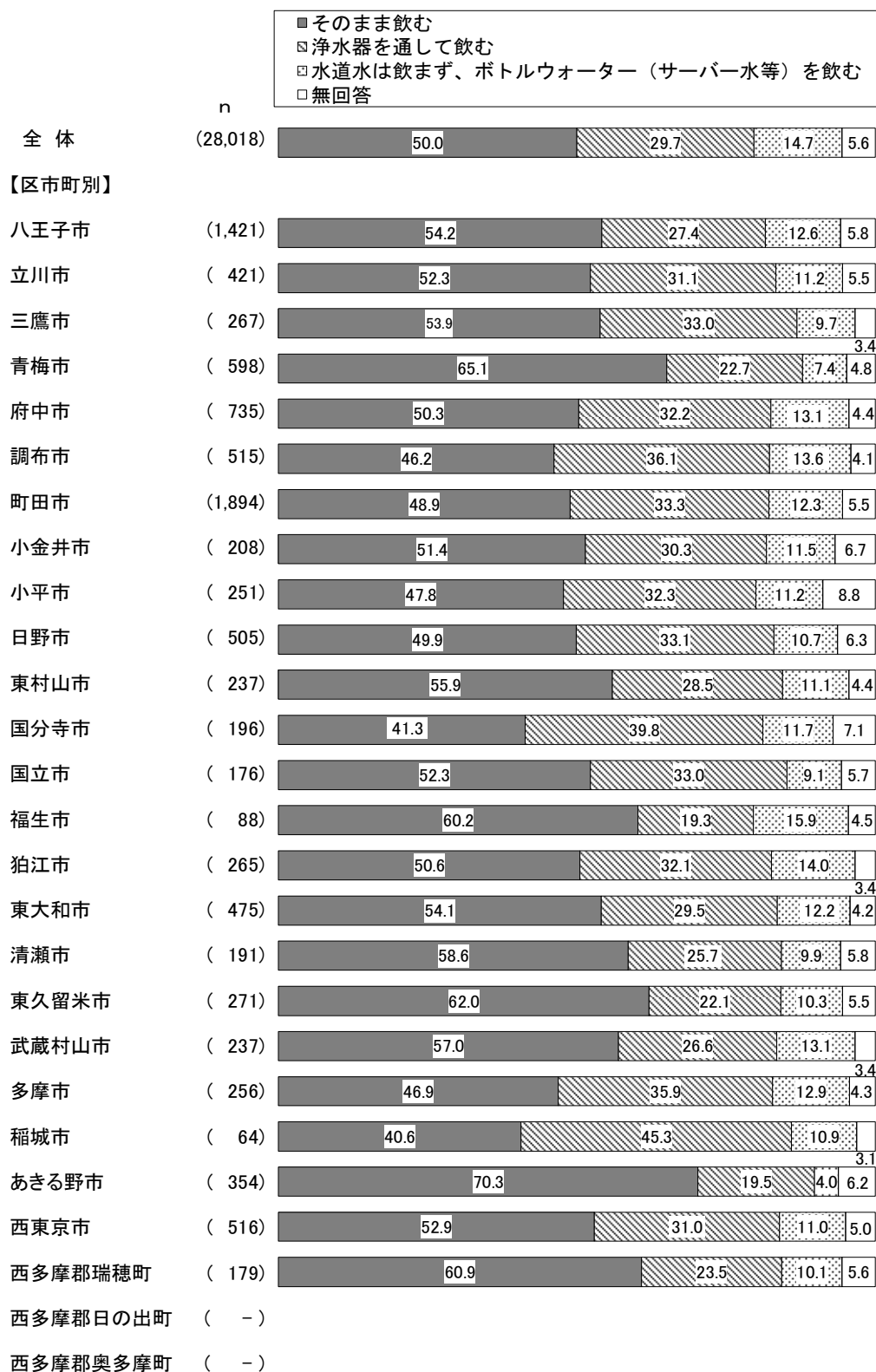
<特徴>

- 性別では、「そのまま飲む」は、男性（56.2%）の方が女性（45.8%）より10.4ポイント高くなっている。一方、「浄水器を通して飲む」は、女性（31.9%）の方が男性（26.5%）より5.4ポイント高くなっている。
- 年齢別では、「そのまま飲む」は、30代（35.1%）で最も低く、それ以降は年齢が上がるにつれて割合は高くなり、70歳以上（61.1%）で最も高くなっている。一方、「水道水は飲まず、ボトルウォーター（サーバー水等）を飲む」は、標本数が少ない19歳以下を除き、20代（29.9%）で最も高く、それ以降は年齢が上がるにつれて割合が低くなっている。
- 性／年齢別では、「そのまま飲む」は、男性の70歳以上（64.5%）で最も高く、女性の30代（32.8%）で最も低くなっている。また「浄水器を通して飲む」は、女性の40代（41.7%）で最も高くなっている。一方、「水道水は飲まず、ボトルウォーター（サーバー水等）を飲む」は、男性の20代（30.1%）が3割で最も高い割合となっている。

③ 水の飲み方（地域別、区市町別）〈図表２－１－３〉



③水の飲み方（地域別、区市町別）〈図表 2－1－4〉

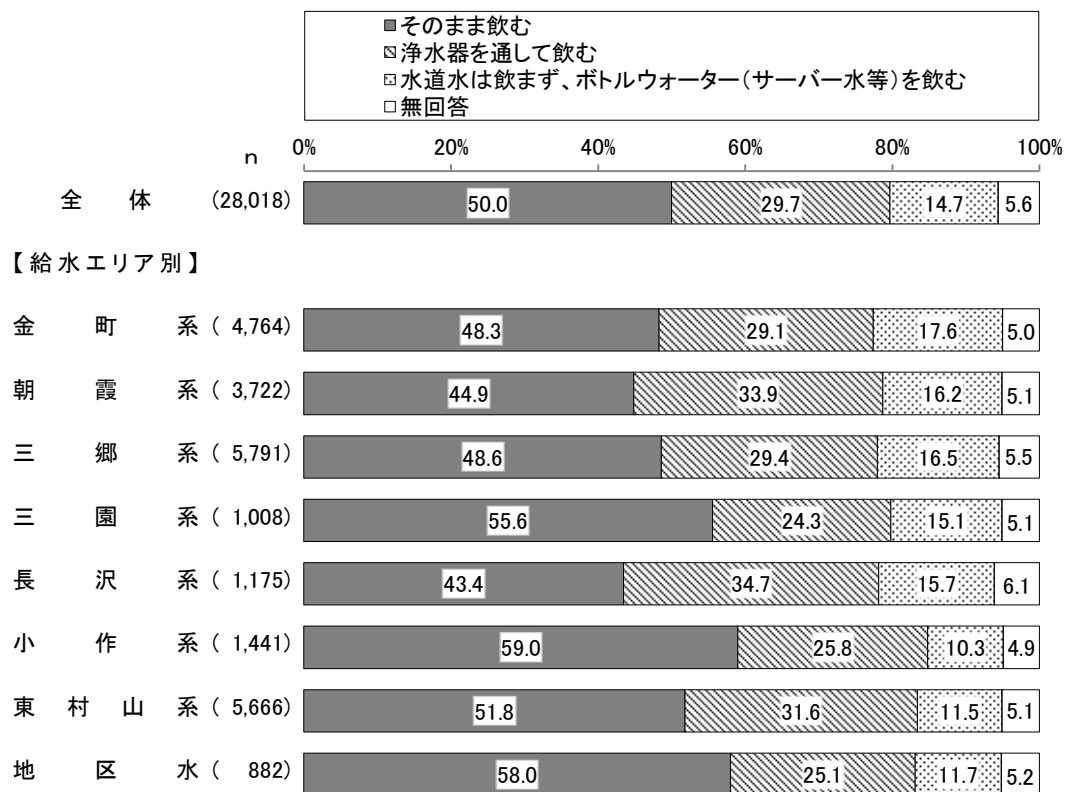


＜特徴＞

○地域別では、「そのまま飲む」は、多摩（53.1％）の方が区部（47.7％）より5.4ポイント高くなっている。一方、「水道水は飲まず、ボトルウォーター（サーバー水等）を飲む」は、区部（16.8％）の方が多摩（11.5％）より5.3ポイント高くなっている。

○区市町別で「そのまま飲む」をみると、区部では標本数の少ない千代田区を除き、北区（57.3％）が5割台半ばで最も高く、板橋区・豊島区・荒川区・足立区・江戸川区で5割を超えている。多摩ではあきる野市（70.3％）が7割で最も高く、青梅市・東久留米市・瑞穂町・福生市で6割台と高くなっている。

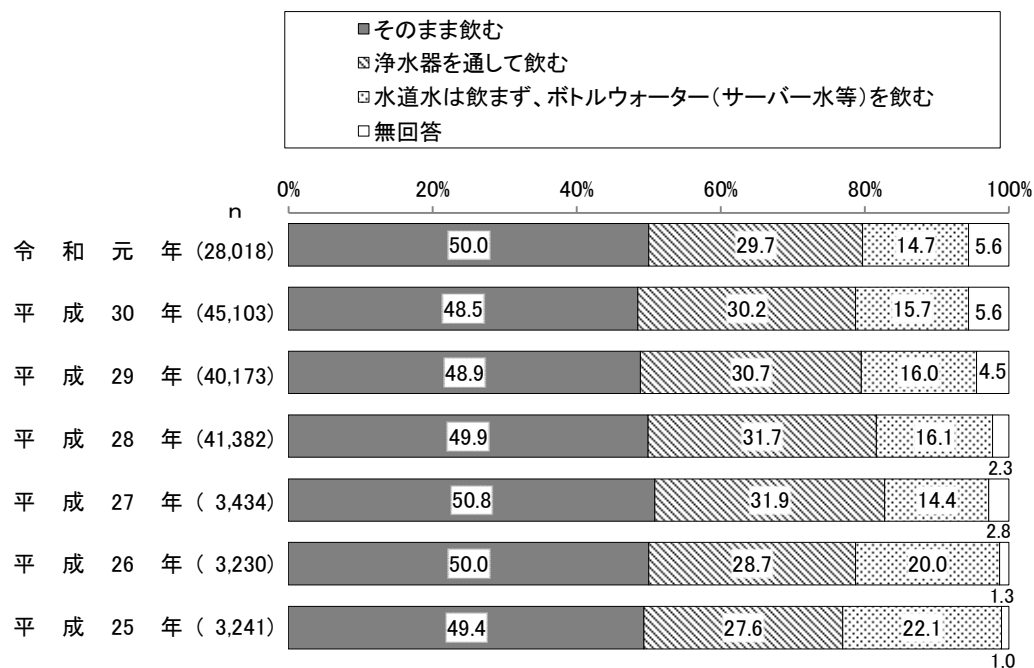
④ 水の飲み方（給水エリア別）〈図表２－１－５〉



<特徴>

○給水エリア別では、「そのまま飲む」は、小作系（59.0％）が最も高く、次いで地区水（58.0％）と三園系（55.6％）が５割台半ば以上となっている。一方、「水道水は飲まず、ボトルウォーター（サーバー水等）を飲む」は、金町系（17.6％）が最も高く、次いで三郷系（16.5％）、朝霞系（16.2％）が他の給水エリアより高い割合となっている。

⑤ 水の飲み方（時系列：全体）〈図表 2－1－6〉



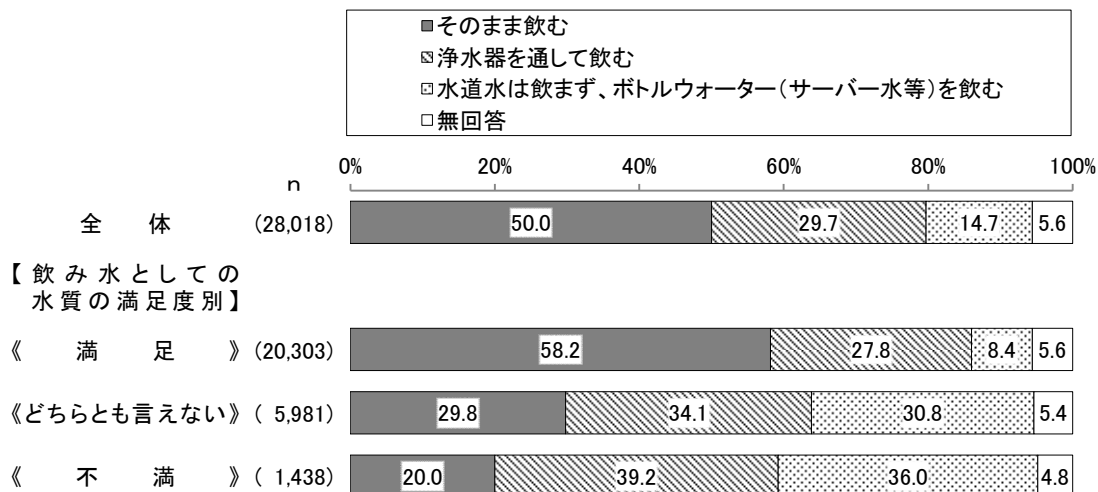
＜特徴＞

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から令和元年度までの5年間の傾向でも、特に大きな違いはなく、「そのまま飲む」が5割前後、「浄水器を通して飲む」が3割前後で推移している。

〔詳細分析〕（分析の軸はA票とE票の設問）

⑥ 水の飲み方（飲み水としての水質の満足度別）〈図表 2－1－7〉

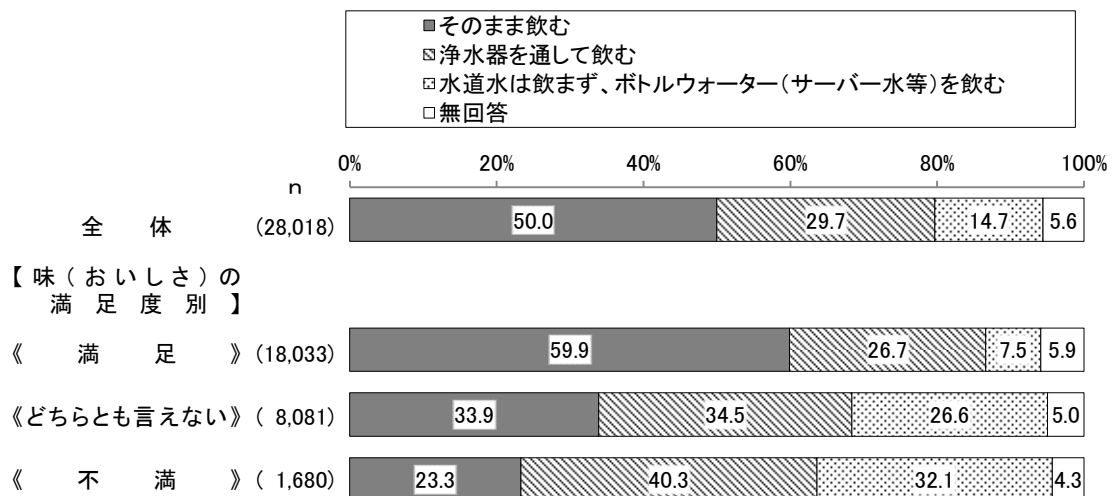


注 飲み水としての水質の満足度の結果は23ページに掲載されているが、水の飲み方はA票とE票のみの設問であるため、nはA票とE票の回答者数に絞られる。

＜特徴＞

○飲み水としての水質の満足度別では、「そのまま飲む」は、飲み水としての水質に《満足》な人（58.2%）の方が《不満》な人（20.0%）より38.2ポイント高くなっている。一方、「水道水は飲まず、ボトルウォーター（サーバー水等）を飲む」は、《不満》な人（36.0%）の方が《満足》な人（8.4%）より27.6ポイント高くなっている。

⑦ 水の飲み方（味（おいしさ）の満足度別）〈図表２－１－８〉



<特徴>

○水道水の味（おいしさ）では、「そのまま飲む」は、水道水の味（おいしさ）に《満足》な人（59.9%）の方が《不満》な人（23.3%）より36.6ポイント高くなっている。一方、「水道水は飲まず、ボトルウォーター（サーバー水等）を飲む」は、《不満》な人（32.1%）の方が《満足》な人（7.5%）より24.6ポイント高くなっている。

(2) 調理に使用する場合の水の使用状況

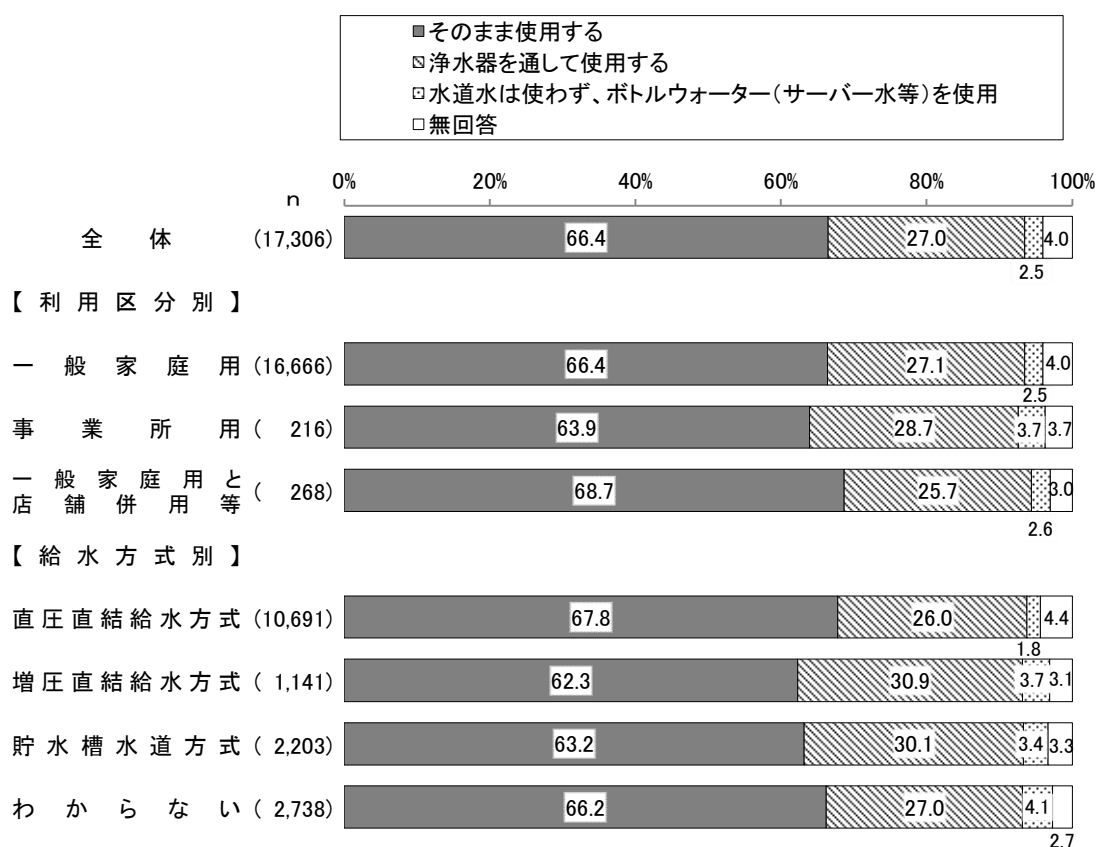
問 普段調理をする場合、水道水をどのように使用されていますか。

- 1) そのまま使用する
- 2) 浄水器を通して使用する
- 3) 水道水を使わず、ボトルウォーター（サーバー水等）を使用する

〔B：問8〕

〔調査結果〕

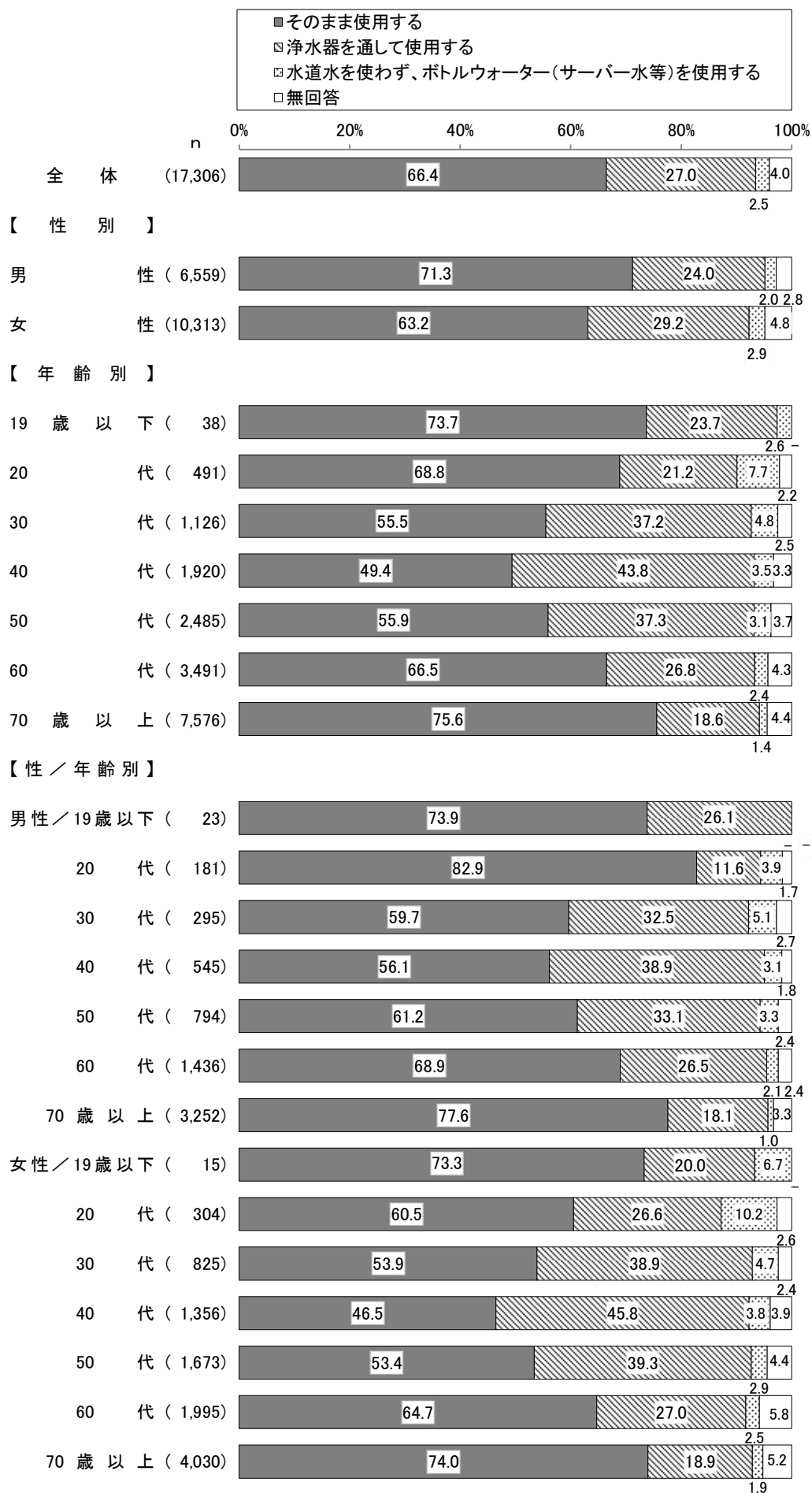
① 調理に使用する場合の水の使用状況（利用区分別、給水方式別）〈図表2－1－9〉



<特徴>

- 全体でみると、「そのまま使用する」が66.4%で最も高くなっている。以下「浄水器を通して使用する」（27.0%）、「水道水を使わず、ボトルウォーター（サーバー水等）を使用」（2.5%）となっている。
- 利用区分別では、「そのまま使用する」は、一般家庭用と店舗併用等（68.7%）で最も高い割合となっている。
- 給水方式別では、「そのまま使用する」は、直圧直結給水方式で67.8%と最も高い割合となっている。

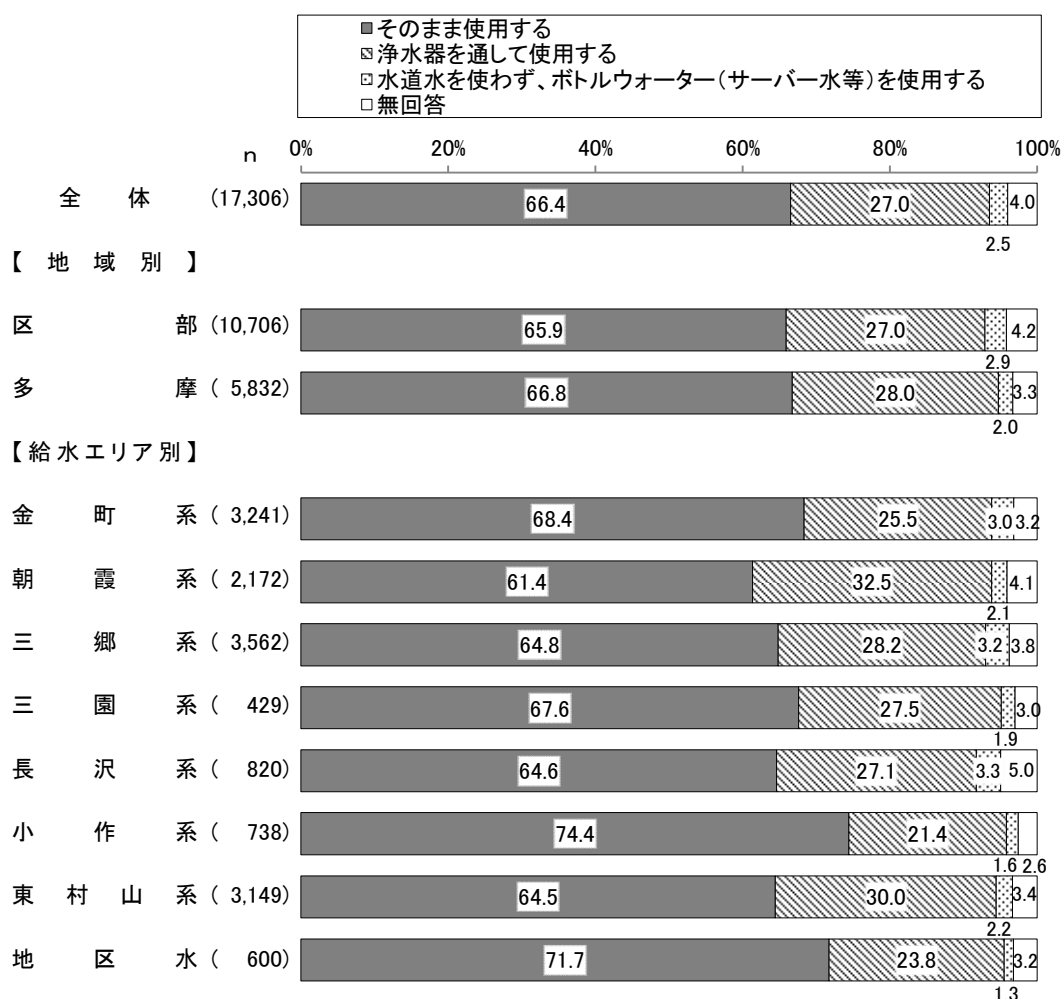
② 調理に使用する場合の水の使用状況（属性別）〈図表 2－1－10〉



<特徴>

- 性別では、「そのまま使用する」は、男性（71.3%）の方が女性（63.2%）より8.1ポイント高くなっている。一方、「浄水器を通して使用する」は、女性（29.2%）の方が男性（24.0%）より5.2ポイント高くなっている。
- 年齢別では、「そのまま使用する」は、19歳以下（73.7%）から年齢が上がるにつれて割合は低くなり、40代（49.4%）で最も低くなるが、40代からは年齢が上がるにつれて割合も高くなり、70歳以上（75.6%）で最も高くなっている。
- 性／年齢別では、「そのまま使用する」は、男性の20代（82.9%）で最も高く、次いで、男性の70歳以上（77.6%）、女性の70歳以上（74.0%）となっている。

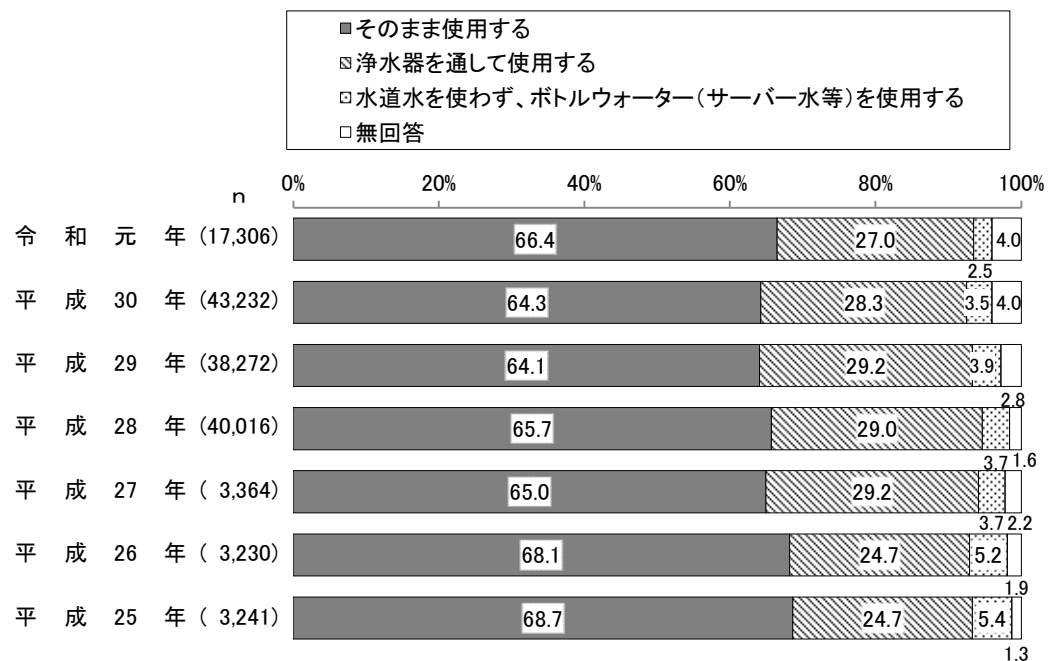
③ 調理に使用する場合の水の使用状況（地域別、給水エリア別）〈図表2-1-11〉



<特徴>

- 地域別では、区部と多摩の割合に特に大きな違いはみられない。
- 給水エリア別では、「そのまま使用する」は、小作系（74.4%）で最も高く、次いで地区水（71.7%）となっている。

④ 調理に使用する場合の水の使用状況（時系列：全体）〈図表２－１－１２〉



<特徴>

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から令和元年度までの5年間の傾向でも、特に大きな違いはなく、「そのまま使用する」が6割台半ば、「浄水器を通して使用する」が3割弱で推移している。